

ENGAWA NEWS

2015年2月

延藤が「縁がわ」視点で今を読み解く～ ENDOKUKAI 5 ～

『わがまま歓迎、けんかワクワク、リスクは楽しい！ ～長者町とソウルの比較・交流を通して』

(右)ソウル市マウル共同体総合支援センターのセンター長並びにスタッフ10名が長者町を視察(昨年11月)
(左)視察を機縁に、延藤がソウルでの講演に招かれる。(2015年1月)



●生活経済まちづくりを

お正月明け、ソウルで講演と調査を行った。ソウルの現市長は人権派の弁護士出身であり、1000万超の首都にあつて、マウル(町・村)単位(約2、3万人)に地域主導でまちづくり計画を策定し、多様な活動と事業を実践していく市民主体のまち育てを推進する方針をだしている。2014年度の典型事例をソウル市民が発表し、小生が日本のことを講演するプログラムにおいて、主に名古屋錦二丁目長者町地区についてプレゼンテーションをした。会場には約200人の参加者(市民・行政半々)が詰めかけ、熱い共感の反応が渦まいた。

その前後4日間、ソウル各地区を現地調査をした際、何れもコミュニティ・イニシアティブ、地域主体の誠に新鮮な活動と成果が確認できた。ソウル特別市にあるこの区を中心にあるうちの1つ、麻浦区に標高60メートルの小山(ソンミサン)をとりにまく地域がある。すぐ南側を漢江が流れるソンミサン・マウルでは、1994年、この地域に集団移住した30代の共稼ぎ夫婦25世帯が、生活上最も必要としていた共同育児施設「ウニ・オリンチップ(私たちの子どもの家)」を設立した。共同育児の活動は、子どもの成長につれてやがてオルタナティブ・スクールを生み出し、食の安全のための生協には(↓次頁つづく)

目次

1) 延藤が「縁がわ」視点で今を読み解く～ ENDOKUKAI 5	P 1
2) トーホク志援プロジェクト#5「荒浜のイマに学ぶ」	P 3
3) 錦二丁目長者町まちづくりコーディネート#6「長者町歩道社会実験」	P 4
4) ジネンカフェだより	P 7
5) 縁側理事の徒然日記“森登編”「建築トラブルと向き合う」	P 8
6) まちの会所通信	P 8



まちづくり事業として世界的に有名な清溪川(チヨンゲチョンソウル市中心部)。高速道路を撤去して河川を復活させ、親水空間として市民に親しまれている。

コーポラティブ住宅づくりも盛んである



ソンミサンの住民支え合いのしくみは共同育児活動から発展していった



約5700世帯が加盟し、カフェ、コミュニティレストラン、リサイクルショップ

プ、市民劇場、ミニFM放送局など、新しい文化や開かれたコミュニケーションを支える多彩な70を超える活動や事業体(マウル企業)が活発に展開されている。子育てにいい、住みやすいまちということでは他地域からの住民が流入し、コーポラティブ住宅が4プロジェクト成立している。全ての事業が市民自ら出資し計画・実施・運営している。これは正にコーポラティブ・コレクティブ・タウンの典型である。ここには、市民の生活の場を多面的に次から次へと整える活動をしていることが、まちをつくり育むことにつながっている。

他にも、このような住民主体のまちづくりが多様にみられるが、背景には2012年12月から協同組合基本法が施行され、もともとあった8つの協同組合

に関する個別法を統合した基本法の下に、社会的企業としての協同組合を促進し、生活・経済・まちづくりの一貫性のある社会的仕組みをつくったことがある。資本主義経済の行き詰まりを、韓国市民は支え合いと協働によって乗り越える道を選択している。

● 共通する創造的まちづくりキーワード

昨秋、ソウルまちづくりセンター(公設民営)から長者町に見学にこられた時、ソウルと状況や規模は全く違うが、共通点が両者にあることを彼らは直観し、今回の招待講演に結びついたように思う。わずかの探訪・観察ではあるが、ソウルと長者町には同時代のエンガワまちづくりにおいて次の5点の共通点とソウルが示唆するキーワードがある。

第1に、地域主導でまちの未来像を描き、多様に実践する。この点については、長者町が16haという都心地区であるが、20年先のビジョンを「アクション・オリエンテッド・プランニング」の方法でマスタープランを策定し諸活動を展開していることに符号している。

第2に、遊び・文化を通じて、人と人とのつながりが育まれている。ソンミサンを始め、かの国では演劇や絵画等の表現活動を「一緒に遊ぼう」の視点から進めている。長者町も、遊び心をもって短

歌でまちづくり憲章、「色は匂えど長者町カルタ」、アートとまちの出会いが、人と人を結びあわせている。

第3に、まち事業を展開し貢献経済を育む。ソウルの市民は共同出資で協働事業を多面的に展開し、リスクを楽しみながら、生活と地域に貢献する経済を具体的に多面的に作動させている。この点は、長者町の今後の課題である。

第4に、わがまま歓迎、けんかワクワク、リスクは楽しい。「ソンミサンする」か条にあるこれらのモットーは、私たちがよくいう「トラブルをエネルギーに変える」発想と軌を一にしている。

第5に、地域主体、行政後方支援。長者町では名古屋市が呼びかけた「低炭素モデル地区事業」に応募し、提案と活動実績が評価され、認定地区となる。環境経済まちづくりの地域主導の実践が今後期待される。

ソウルの各地区の人々から、長者町と私のまちと姉妹まちになりませんか?との呼びかけを受けた。国や都市を超えて、地区レベルの「姉妹まち」提携・交流により、市民主体のまちの育みの知恵と仕組みの創発の時代がきている。

▲参考Vエンパブリック・日本希望製作所編…まちの起業がどんな生まれるコミュニティ、日本希望製作所、2011年

荒浜のイマに学ぶ〜次世代の登場

●長者町から被災地に届け！

希望の黄色いハンカチ

高倉健さんが天に召されました。私たちNPOが、住民からのボトムアップの再生計画づくりをお手伝いしている仙台市荒浜地区では、高倉健さんを忍ぶメッセージの書かれた黄色いハンカチが風にたなびいていました。荒浜と高倉健さんとの関係は、2012年3月にさかのぼります。震災から1年が経ったこの頃、ふるさとに帰れなくても、危険区域に指定されて帰れない荒浜の人々は、「寺の五色布のうち黄色の旗だけが泥の中から発見された。これは希望の象徴。高倉健さんの映画でも黄色いハンカチは“帰ってきていいよ”の合図だったではないか！」と、こんなつぶやきを受けて、名古屋の長者町の旦那衆は数百メートルの黄色い布を、提供してくれました。長者町のみんなで、映画「幸福の黄色いハンカチ」そっくりの旗に縫って、全国からの応援メッセージを黄色

い布に転写して荒浜に送りました。あれから、厳しい潮風にさらされてポロポロになった黄色いハンカチを、こまめに荒浜の方々は直して、希望の象徴として掲げ続けています。高倉健さんの訃報にふれて、メディアが荒浜の人に追悼のコ멘トを求めるなど、一定の社会的メッセージの役割を果たしてきたことがわかります。

●荒浜を忘れないで下さい。

それでも、なかなか変えられない現実があります。これまでの学習や活動の中で「災害危険区域」という住めない地域に指定されたことの不合理性、制度的不備等は明らかになってきていますが、一度決まった行政の方針を変えるのは容易なことではありません。そういった厳しい現実の中で、長者町からできることがあるとすれば、「忘れていませんよ。応援しているよ。」という気持ちを伝えることだと思います。私たちまちの暮らしは、里浜や里山など、「食」の生産などをし

ている人たちに支えられていることを忘れてはいけないと思います。そう考えれば、浜の暮らしの復興は自分たちの問題でもあります。

●「荒浜のイマ」に学ぶ

〜次世代の登場！

昨年11月に荒浜に赴いたのは、今までの荒浜再生を願う会の中心的メンバーの息子さんたちが活躍しはじめた状況を取材し、応援するためです。「海辺の図書館」という新たな活動が

はじまりました。荒浜に集まる人、知恵、文化、活動など、無形のものを「蔵書」として位置付け、「図書館」となる荒浜をプラットフォームとして活性化していこうという取組です。キックオフには荒浜の人、他地区の被災地、大阪、九州、名古屋、あらゆるところから集まりました。朝陽を見て、「図書館体操」して、みんなでご飯を食べ、語り合う、心も身体も満たされる集まりとなりました。「ひとりひとりが、楽しんだり、やりたいことが出来たり、

少し背伸びができる場として荒浜がある。未来を考えるためのアイディアを沢山出し合える状況をつくること

が最も大事」と館長の庄子さんは言います。

新しい風が吹き始めた地域に、沢山の可能性を見ました。状況は違っても、同時代、私たちの地域の生き方にも、ヒントをいっぱい授けてくれていきます。ありがとうございます。(名畑)



「海辺の図書館」は朝陽をバックに「図書館体操」をして始めました。(2014年11月24日)

長者町「歩道拡幅社会実験」レポート～みんなでつくって検証した6カ月～

ここでは、地域主体でつくった「こ

【2014年9月】 ●ついに長者町の歩道拡幅社会実験」

始動！

れからの錦二丁目長者町まちづくり構想2011-2030」が出来上がったから、進めてきている実行プロジェクトのうち、最も重点的に動いてきた「歩道拡幅社会実験」について、順を追ってレポートしていきます。



「長者町・歩道拡幅社会実験」実施主体の代表のお三方
(左) 滝一之さん(下長者町町内会・会長/名古屋長者町織物協同組合)、
(中) 小出祐弘さん(錦二丁目町内会連合)、(右) 藤森幹人さん(錦二丁目まちづくり協議会公共空間デザインプロジェクトリーダー)

9月15日から一週間かけて、みなさんと整備してきた歩道の拡幅が姿をあらわしました。長者町の人による自発的などりくみとして、公共空間の整備提案を社会実験(6ヶ月間)で検証しようというものです。費用も整備も自分達で。そのあついで行動にはどんな思いがあるのでしょうか。
主に次の4点の目的・ねらいがあります。

- ①車の逆行がよくおこるようになり、死者を出さないために車道を狭め、安心安全なまちにしましょう。
- ②歩いて楽しいにぎわいと憩いのあるまちにしましょう。
- ③半年間の「社会実験(*)」の間に、歩道拡幅の是非を多面的に明らかにし今後の進め方を考えましょう。
- ④まち全体の目標とこの実験はつながっています。地域主体でつくった「これからの錦二丁目長者町まちづ

くり構想2030」の行動のひとつでもあります。

(*)道路という公共空間のこれからのあり方を具体的な形に整備し、その作り方、使い方、管理の仕方等についての良し悪しを一定期間検証することをいいます。名古屋市と錦二丁目長者町地区が協定を結んで進めています。

●一緒に汗をかければ皆「まちの人」!

整備作業は、実施主体だけでなく、豊田森林組合の方、関係者の同級生の好で来てくれた方、地元企業の従業員の方々、学生等、応援者の力が大きな支えとなりました。

参加してくれた学生がこんな感想を寄せてくれました。「初めて皆さんと一緒に一つの目的に向かって作業ができたので楽しかったです。今回参加して思ったことは、長者町の方々が僕の活動の様子を見て声をかけてくれることです。その時にとっても自分の気持ち温かくなりました。」一緒に汗をかけばまちの外の人も同じ「まち

の人」という気持ちになってくれるのが一番うれしいですね!



↑ベビーカーで仕上りを確認!



↑沿道の方からアドバイスをいただき納まりの検討

●「長者町ウッドテラス」を

考えるしゃべり場

10月11日(土)午後3時から「ま
ちのしゃべり場」が行われました。9
月に完成し、6カ月間の歩道拡幅社会
実験中である「長者町ウッドテラス」
がテーマです。これまでの本地区のま
ちづくりで目指してきたこと、その文
脈の中での位置づけを確認し、この社
会実験を糧に未来に向けての展開を
探る会となりました。

はじめに、延藤安弘氏(NPO法人
まちの縁側育くみ隊・代表理事)から
今回の社会実験に至るまでの、錦二丁
目・長者町界隈のまちづくりの流れ、
長者町ウッドテラスを地域一体でつ
くってきたプロセスの紹介がありま
した。長者町の人が生き生きと歩道整
備に携る姿、沿道の店主たちとの意見
交換の様子などのスライドが紹介さ
れました。まさに、まちの自発的な取
り組みであり、資金・労力等含め、社
会基盤を自ら作り維持するという気
概に満ちた地域住民の様子が伝わり
ました。

その後のシンポジウムの司会は村山
顕人氏(東京大学准教授)、パネラー
は、プロジェクトを主導してきた錦二

丁目まちづくり協議会から藤森幹人
氏、河崎泰了氏、専門家として柳田良
造氏(岐阜市立女子短期大学教授)が
登壇しました。

藤森氏からは「車の逆行がよくおこ
るようになり、死者を出さないために
車道を狭め、安心安全なまちにしよ
う。」と、目的は交通安全であること
が強調されました。一方で、木材を使
った整備が、憩いや賑わいの効果があ
るとの評価もあり、「ベンチを置くな
どもっと憩いの空間づくりができれば
いいのに、今の整備ではもの足りな
い」という意見が会場から寄せられま
した。村山氏からアメリカの「パーク
レット」や、河崎氏からは「札幌のす
わろうテラス」など、交通安全だけで
ない「賑わい」や「憩い」を目的とし
たイメージに近い事例紹介もありま
した。また、時間限定で通行止めにし
て「ランチモール」をする等の歩道の
使いこなしのアイデアが出されま
した。加えて、柳田氏からは、名古屋
の市街地全体の公共空間のつくり
にバリア(段差など)が多いとの指摘が
ありました。

これらの意見交換により、今後、交
通安全と賑わいをもたらすエリアマ
ネジメントの視点は両輪で展開して

いきたい、それには時代に合った、状
況にあった展開ができる様、住民と行
政が覚悟をもって官民連携を進めて
いくことの示唆がありました。

●「長者町ウッドテラス」は

「新しい公共」

シンポジウムの内容をその場で延
藤氏がまとめました。

①安全安心な道まちづくりは時代
の流れ②他都市にない特性、公共空間
4割を活かし、空間の価値再配分を行
なおう③ラッキーな駐車スペースの
活用!パークレット等、国際的潮流に
学び長者町らしさを実現しよう④市
全体の都市づくりのリーディングプ
ロジェクトとして誇りをもとう⑤維
持管理と道路使用の柔軟い運営を現
場から開こう⑥公共空間を地域主導
で、ハード・ソフト両面から変え方を
確かめる社会実験である。⑦うきうき
とランチモールなど、道が広場的に活
用できる試みをしよう⑧共栄あるか
ら共存あり。営業者と非営業者の共生
へ⑨他所のまちとの連携。知恵と技を
分かち合おう!⑩うつつうしいトラ
ブルはエネルギーに変えよう

*各キーワードの頭文字を束ねる
と「新しい公共」となりました!



まちのしゃべり場の様子(主催:JUDI都
市環境デザイン会議中部ブロック/錦二丁
目まちづくり協議会)
(左)社会実験の中間報告をする藤森(NP
Oまちの縁側育くみ隊/錦二丁目まちづく
り協議会)

● 中間報告！社会実験中の「長者町ウッドテラス」。効果は如何に？

長者町の歩道拡幅社会実験は2015年3月まで続きますが、1月の時点でその効果について分析の中間発表を地域にフィードバックしました。車の逆走抑制といった交通安全、憩える空間としての歩道の拡幅という新しい通りの効果は出るのか、分析し是非を問うていくことが社会実験の大きな目的であり、その過程を臨場感をもって共有することをこころがけてきました。

車、歩行者の交通量調査や、気温測定等客観評価に加えて、沿道の店舗の皆さんへのヒヤリング、利用者の方へのインタビュ調査といった意向把握等、多面的な調査をこれまでにやってきています。ここでは、その一部の中間報告をさせていただきます！へ交通実態へ自動車交通量は8%減、速度は6.8%減と、共に減少しており安全性向上の効果が出ています。ただし、逆走車両については確認されています。これは、歩道拡幅区間が短いと思います。（設置前との比較は確認中です）※11月平日3日間を対象にした結果です。

＜平日の利用者意向＞

①回答者は地区内に職場、学校のある人が多く、長年通っている人が多いのが特徴です。②歩道拡幅の効果は、50%以上（69人/129人中）の人が実感しています。理由は「幅が広がり歩きやすくなった」という意見が最も多いです。③今後の整備意向としては、一部改善を望む人を含めて約81%の人が地区全体で歩道整備を進めてほしいと考えています。④どのような改善が必要かは、ベンチ等「休憩施設を設置してほしい」が最も多いです。

＜休日の利用者意向＞

①回答者の特徴は、調査日が多びす祭りの日だったため、祭り、買物目的の地区外の人が多いです。②歩道拡幅には約95%（189人/199人中）の人が肯定的です。理由は「歩きやすくなりそう」という意見が最も多いです③木材を利用して整備していることに対して、約99%の人が肯定的です。④また、今後の整備意向として、約97%の人が歩道上に休憩スペースをつくることに肯定的です。＜沿道店主の意向＞荷捌き等業務上、テラスが邪魔になるという意見もあり、荷捌きも含めた自動車交通の処理

への課題が見えてきています。

一方で、これを期に休日のテラスを「ものづくり市」に活用する等、新たな商いの特色づくりのアイデアも様々寄せられました。

●さらに積極的活用・周知で公共空間を育てよう！

この時点で、テラスの利用者は、当該区間の長者町歩行者量の中で9%と、少ない。「歩いていいかわからなかった」という意見も目立ちました。木材で整備していることが、その原因の一端ともいえそうですが、木材への肯定的意見は顕著に表れていますので、積極的に広報し、「わかりにくさ」を払拭していくことは喫緊の課題であるといえます。その他、障害物対策（駐輪、店舗の看板、商品、電線地上機器、アーケード支柱、…）日よけ風よけの設置等中長期の整備課題も見えてきています。実験中はより多くの人が利用していただくことで、課題が見えてきます。みなさんの積極的な活用によって、気づきや提案を寄せていただけるよう、町内の主体者のみなさん自ら調査や周知のためのヒヤリング等の活動をおこなってきています。私たちが、私たちの公共空間を育てていきましょう！（名畑）



↑11月8、9日のゑびす祭りでは沢山の人が長者町ウッドテラスを活用しました。（右）ゑびす祭りではインタビューによって利用者の意向調査を行いました

※実験期間の途中（11月）のデータを元にした速報です。

※本調査は、「既存市街地のまちづくりを通じた都心型低炭素ライフスタイル・ワークスタイルの評価方法構築（委託元…環境省）」の一環として、錦二丁目まちづくり協議会及び町内会の協力のもと、大日本コンサルタント（株）、東京大学工学系研究科都市工学専攻都市計画研究室、NPO法人まちの縁側育くみ隊が行っています。

ジネンカフェ だより

NPO 法人くれよんBOX との
協働プロジェクト
問合せ（担当：大久保）
Tel / Fax 052-201-9878



11月のMITTS COFFEE STAND
のオーナー・阿部充朗さんの会では若い
参加者が集まった

8目の今年度を振り返ってみると、
ますます多分野、多士済々なゲストを
お迎えして行ってきたという感があ
る。参加者の人数は相変わらずその回
によってまちまちだけれど、たまたま
（くれよんカフェ）にお茶を飲みにき
ていた方たちが、お話が面白そうだか
ら…とその場で参加してくれたり、以
前からジネンカフェの噂は聞いてい
て、一度参加してみたいと思いつつも
その機会に恵まれず、今回思いきって
参加しましたという方もいらっしや
る。【ジネンカフェ】の（カフェ）の
由来は、会場であるくれよんカフェと
かけていることもあるが、それだけ
ではなく街角に佇むカフェにふらり
と足を向けるような気軽さで参加し
てほしいという願いが込められている。参
加人数が読めないというのは、運営的
に苦しいが側面もあるが、これが当初
から思い描いていた理想的な形なの
だ。今回は紙面の関係上今年度のダイ
ジェストの、ほんのイントロのみをお
届けしたいと思う。

今年度初回のゲストは、まちの縁側
育くみ隊の理事で、事務局長の名畑恵
さんであった。名畑さんは学生の頃に
市民活動を始めるきっかけとなった
榎木館や、そこで活動していた人々、

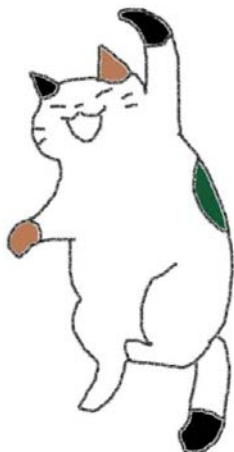
絵本の世界を自分に引き寄せ、自由な
解釈で縦横無尽に語るまち育ての師
匠・延藤安弘先生との出会いを振り返
り、自分の（好き）が地域を育んでゆ
く糧になることを、その素晴らしさを
語っていた。また、名畑さんによ
って繰り広げられた【絵本ワークシ
ョップ】は創発的で、創造的で楽しく、
参加者のみなさんにも好評であった。

秋もたけなわの二月には、錦二丁
目に店を構える MITTS COFFEE
STAND のオーナー・阿部充朗さんにご
登場願った。もともとパンを焼く母
親に憧れてパン屋を目指していた阿
部さんだが、紆余曲折を経てカフェを
オープンするに至った。阿部さんもご
自分の（好き）に貪欲な方で、感性の
アンテナを四方八方にそのこだわり
や独自の哲学をお店の経営や空間づ
くりにも活かされている。最近ではま
ちとまちとを繋いで名古屋をもっと
盛り上げたり、知りあいのアーティス
トさんや何かを始めた人々を支援し
たいという方向に関心のベクトルが
向いているとか…。そんなお話を伺っ
た。

その他、この原稿を書いている時点
（平成27年1月現在）で、NPO法
人くれよんBOXの井上さつきさん、

名古屋の特別支援学校の担任をされ
ている古田英仁さん、音楽活動やご自
分の経験を活かしたノーマライゼー
ション推進活動をされている、くまの
ての松田美和さんと中村くに子さん。
トヨタ系の車部品製造・販売会社デン
ソーが立ち上げた認定NPO法人
WAFCAの事務局長・坂元邦晴さん
のお話を伺ってきている。2月には拡大
版が控えている。『障がいの有無に関
わりなく、誰もが旅を楽しむには』と
題して、パネルトークとワールドカフ
エの二部仕立てで開催する。みなさま
もよろしければご参加下さい。
（大久保）

※ ジネンカフェブログ
<http://blog.goo.ne.jp/jinencafe>



フェイスブックページもあります！
目印はこのネコ！

建築 トラブルと 向き合う(1)

に住宅設計者の重要な役割と考えるからで、直接的なきっかけは以前、建築主から不当に訴えられたことがあ

るからです。お恥ずかしい話ですが以下に概略を紹介します。

知り合いの建築関係者からの紹介で、住宅リフォームの設計監理をおこなった時の事です。当方にとっては業務外になる「浴室坪庭工事」に関するクレームです。外構工事業者が建築主と打合せしつつ作成した図面を、リフォーム工事の現場打合せの最中にチラと見せられ「このように造ります」とだけ告げられました。建築主による別途発注分なのですが、この言葉に騙されました。リフォーム工事が完了した後、浴室坪庭工事が始まり、何事も無く坪庭は建築主の好み通り、見事に完成しました。が、建築主から「浴槽に入っても坪庭が見えない」と私に連絡がありました。そこで私は、「外構業者に庭石、樹木など坪庭が見えるよう坪庭全体をかき上げしてもらえば良いのではありませんか？」と返答しましたが、建築主からは「外構工事はもう終わっている」と意味不明のコトバが帰ってきました。当然ですが、建築主が坪庭工事の際、外構工事業者に「浴槽から庭が見えるように造って」と再確認すればよい話で、当方には全

く関係が無い内容です。しかし建築主は、図面をチラと「見せた」ことを、「坪庭の工事監理も頼んだ」と「既成事実化」しようと企みました。建築主が入浴してみると「浴槽から坪庭が見えないことが解った」からで、「外構工事が終了して、今更頼むと追加金額が必要と言われた」から、当方へクレームを言ってきたのです。この件は結果、弁護士会が主催する斡旋仲裁にかけられることになりました。その場には「仲裁に精通する建築家」なるセンセイが、弁護士会の弁護士と共に席に着かれました。そのセンセイ、私の話も聞かず、背景も確かめようとせず、建築主のコトバのみを聴いて、私の顔を見るなり開口一番「最近の訴訟とは建築主有利にコトが運ぶから、ここで認めて、この際、折半でしょう？」と言われました・・・。

この発言を受けて、私は両方の通じ積極的に住宅訴訟に関わっていくことにしました。ちなみに建築士会の依頼で、建築調停委員・専門委員も務めており、建築主側・業者側、或いは原告側・被告側へのバランスを取りつつ、第三者的立場を貫いています。

次号にて、去年当方に相談があった事実と関った訴訟の概略を紹介させていただきます。

まちの会所 通信

名古屋市中区 錦二丁目・長者町地区
まち育て拠点「まちの会所」
問合せ(担当:名畑)
Tel / Fax 052-201-9878

長者町の新しい動きは、まちぐるみで心肺蘇生講習会を(心臓マッサージとAED)継続的に行っているという運動です。まずは自分の短い講習で、「自分事」にする、考えるきっかけになることを目指します。人口の80パーセントが講習を受けていると、倒れた人の周りに必ず講習を受けた人がいる状態になると言われています。錦二丁目・長者町地区(Ensha)は昼間人口が2万人以上、その20パーセントは4000人です。行政や消防署の取り組みだけでは限界があります。市民で補完するまちぐるみのしくみが立ち上がるうとしていきます。3月はその初めの一步。次号で報告します!

ENGAWA NEWS90号

発行:2015年2月15日
編集発行: NPO法人まちの縁側育くみ隊
名古屋市中区錦2-13-1 宮本ビル4F
Tel / Fax 052-201-9878